

<保護者様へのメッセージ>

医学部受験生を支えておられる保護者様への願いは、次の一文に尽きます。

「勉強や成績面では干渉せず、学費面、生活面、精神面でのサポートなど勉強に集中できる環境を整えるサポートを行ってあげてください。」

保護者様の中には、善意で生徒様に厳しくあたったり勉強面に干渉される方がいますが、結果的にほぼ全てが逆効果になってしまっていることがこれまでの経験からいえます。

私自身が医学部受験をした10年ほど前と比較しても、いまの医学部受験、特に関東の私立医学部の難易度は数倍難しくなっています。東京の私立医学部では定員80名に対して、1年前と比べると受験者数が400人増加したというような医学部もいくつか存在します。

いまの私立医学部で、「滑り止め」という感覚で受験できるような医学部はほとんど存在しません。十分実力があっても、いずれかの教科で本番にミスをしてしまうとそれだけで合格が遠のくような厳しい戦いです。

そんな中、当塾の生徒様はほぼ全員が全力で勉強されています。浪人生の平均勉強時間は1日13時間以上、10%以上の生徒様は1日15時間以上にも達します。これを1年間休みなく継続されます。

これだけの努力をしても、模擬試験含め、思うように結果が出ないことは多々あります。実際、これまで医学部に進学した生徒様の中で、すべてが順調だったという方はほとんど皆無です。模試で失敗したり、センター試験で失敗したり、いくつかの私立医学部で失敗したり、体調を崩してしまったり、直前に身が入らなくなったり、いろんな紆余曲折があります。

しかし、結果的に1つでも合格できれば医学部に進学できます。そのためには、とにかく途中でどんな困難があっても前を向き、1年間医学部受験という戦いに挑み続けることが最も大切です。

注意していただきたい点として、これだけの努力をされている分、失敗したときの反動も大きくなるということです。自分自身の受験経験でもそうでしたが、これだけ努力しているのに結果が思うようにでないときの感情は苦痛以外何ものでもありません。

「自分が情けない」「なんて自分はバカなんだ」「自分のことが信じられない」「自分には可能性なんてないんじゃないかと思ってしまう」「親に見せる顔がない」

医学部に合格した生徒様に、あとになって失敗したときの感情を尋ねるとだいたいこういった返答で共通しています。

これだけ努力した生徒様は、模擬試験でも受験本番でも、真っ先に親御様により知らせを届けたいと思っています。

そんな状況で結果が出なかったとき、一番傷つき苦しんでいるのは生徒様自身です。

期待していたよりも模試の結果が悪かったとき、生徒様は私達にご相談いただく、あるいはご自身でなんとか前を向こうとされます。しかし、せっかく前を向いたと思った途端、ご家庭で保護者様が厳しくあたることで、追い打ちをかけてしまったというケースは例年ございます。

実際、模擬試験後やセンター受験直後に、親御様に厳しくいわれたことで心が折れてしまい、受験継続ができなくなってしまったというとても残念なケースをこれまで複数みてきています。

浪人生や、特に多浪している生徒様に対して、結果が思わしくなかったときハッパをかけるために厳しくあたるといってお気持ちもわかります。

しかし、厳しくあたってプラスになるとすれば、それは努力をしていない場合です。

自分なりに懸命に努力をしている生徒様が失敗してしまったとき、厳しくあたるとは、マイナスにしか働きません。

勉強や成績について保護者様が干渉することは生徒様にとってマイナスに働くことが多く、逆効果になってしまうことがこれまでの指導経験上わかっていることです。

保護者様は勉強面、成績面に関しては干渉せずに見守っていただき、受験校選びや金銭面、精神面、生活面、体調面でのサポートをしていただくことが生徒様にとって最もありがたく効果的な関わり方と考えています。

<受験校選びについて>

国公立医学部だけしか進学できないとお考えの方は、一度本当に私立医学部には進学ができないかをお考えください。国公立医学部の難しさは、問題の難易度ではなく、一発勝負になってしまい、たった一度の失敗も許されないということです。

また、受験直前になって実は私立医学部にも進学できると保護者様がお話されるケースが例年ございます。しかし、直前期になると願書の準備や過去問演習など十分に準備できませんし、それまでの勉強の一部が無駄になってしまうこともあります。

私立医学部への進学が可能である話を生徒様にしてしまうと、気が緩むからぎりぎりまでしないという保護者様も例年いらっしゃいますが、経験上完全に逆効果になっています。

私立医学部の受験が可能かどうかで夏以降のカリキュラムも変わってきますので、決定は早いほど明らかに有利になります。

私立医学部では、学費の安いところほど難易度が高くなります。そのため、許容できる学費が高いほど医学部への入学可能性が高まります。

金銭的な面については生徒様の努力だけではどうしようもないことであり、保護者様のご協力が不可欠です。奨学金についてご検討される方も、世帯収入が奨学金貸与の判定基準になりますので、保護者様が前もってお調べいただくことが必要になります。

「学費が安いところの大学がいい」とだけお伝えになられる保護者様もおられますが、これも当たり前前のことであり何一つ前に進むことができません。

学費面についてはできるだけ早い時期に、具体的にどの学費の医学部まで進学可能なのかを明確に生徒様にお伝えください。あらかじめ明確に決定いただくことで、より効率的なカリキュラム作成が可能になり医学部合格の可能性を上げることが可能となります。

<私たちと保護者の方とのコミュニケーションについて>

私たちは原則として保護者様とのコミュニケーションは行っておりません。特に勉強面や受験校選びの面はすべて生徒様ご自身とのコミュニケーションにて指導を行います。

例年、浪人生の生徒様の保護者様から「子どもの学習状況について教えてほしい」というご連絡や、中には「ちゃんと勉強しているかどうか、授業中は集中しているか、指示は守れているか」などまでご相談いただくことがあります。

前提として、高校生、浪人生であるなら勉強や指示を守ることは自分自身で責任感をもって取り組むべきですし、高校生にもなって自分で勉強できないような人に保護者様から強制的に勉強をさせたとしても医学部合格はまず不可能だといえます。

そして、上記にて記載しています通り、勉強面について保護者様から干渉されることはまずマイナスにしか働きません。

さらに、生徒様の知らないところで保護者の方と連絡をとるというのは、生徒様をまるで幼児のように扱うこととも言え、信頼関係にも関わります。生徒様のモチベーション上、害にしかありません。

生徒様には医学部合格において必要な情報はすべて指導しています。成績の解釈の仕方、受験校の選び方、各生徒様ごとの受験推奨校などもすべてお伝えします。

保護者の方へのサポートもご希望されるという方は当塾では受付できかねますので予めご了承ください。